

私の大切なペット

三年 石塚桃子

私の家にはミニチュアピンシャーというしゅるいの犬がいます。名前は「パン」です。

年れいは犬でいうと九才で、人でいうと五十二才です。パンの毛の色は茶色と黒色ですが、あごに白色のひげが生えてきました。なぜかという、人間といっしょで白が生えてきたからです。

パンは私が生まれる前から家にいます。犬アレルギーの私はパンにくちびるをなめられて、はれて学校を休んだ時もあります。パンの手をふんでかまれた時もあります。でもさい後はかならず仲直りをしてその後はいっしょに遊んでいます。

パンはバイクの音がきらいでバイクが通るといつもほえます。パンは子どもが大すきです。パンが赤ちゃんの時から近所の子どもたちによさしくしてもらっていたからだとお母さんが言っていました。

でも、パンはびょうきで目が見えません。なので、ごはんを食べる時も手でゆかをたたいて音をならしてごはんの場所を教えて食べさせています。時々、物に当たる時もありますが、目が見えにくくても初めて私の家に遊びに来る友達にもほえません。もつとパンの目が見えなくなったら私はかならずパンを助けます。なぜかという、目の中が真っ黒になって全部が黒い世界になってパンの心も真っ黒になってしまうからです。なので、真っ黒にならないようにパンのごはんの場所や物にぶつからないようにずっとずっとパンの近くに私はいます。

パンはおもしろい事をする時もあります。たとえば私がしゅくだいのけんばんをふいている時、その音がいやでほえる時があります。ひくい音ではほえないけど、高い音ではたくさんほえます。そのほえる声がおもしろいしかわいくて私は何回もふいてしまいます。

おならもします。おならをしたら自分のおしりを見ます。パンがおしりを見たら家族全員でわらいます。

パンを見て私は、

「パンはとっても人間ににいておもしろいな。」
と思いました。

パンがちがうびょうきやケガをしたとしても、私は家族とずっとパンのびょうきやケガが治るまでパンのそばにいます。

たくさんかわいがって、パンとずっといっしょにいられるように私がんばりたいです。